第1章 聖徳グループ保育理念

評価基準 A. はい B. いいえ C. 該当なし

		項目	ページ	評価	評価・課題
第1章	聖徳グループ保育理念	園の保育理念や基本方針 真宗保育の理念 聖徳グループ職員という意識 職務分担	1~10	A	真宗保育の理念を基本にし、聖徳グループの経営理念「共に生き、共に育つ」を意識しながら取り組んでいった。

第2章 総則

		項目	ページ	評価	評価・課題	
第2章 総則	① 保育所保育に関する基本原則	保育所保育に関する基本原則 ・ 保育所の役割 ・ 保育の目標 ・ 保育の方法 ・ 保育環境 ・ 保育所の社会的責任	11~22	A	保育理念を意識しながら、保育園の役割等を職員間で話し合い、共通理解をしながら進めていった。	
	② 養護に関する基本的事項	養護に関する基本的事項 ・ 養護の理念 ・ 生命の保持 ・ 情緒の安定	23~35	A	毎月、養護記録を保護者に配布し、保護者と共通理解をはかりながら進めていった。	
	保育の計画及び評価	・ 全体的な計画の作成 ・ 指導計画の展開 ・ 保育内容等の評価 ・ 評価を踏まえた計画の改善	36~41	A	全体的な計画をもとに、段階を踏まえた計画を立てて保育を行えるように進めていった。	
	保育の計画及び評価	保育の内容 ① 保育の環境		42~50	A	子どもの成長にふさわしい保育環境を整えていった。
		保育の内容 ② 乳児保育		51~72	A	年齢別の発達や、特徴を押さえて携わっていけるように、職員間でも情報を共有しながらすすめていった。
保育の内容 ③ 長時間保育			73~78	A	生活のリズムや、心身の状態に十分配慮し、また不安な気持ちにならないように配慮していった。	
保育の内容 ④ 障害がある子どもの保育			79~89	A	外部施設・職員間での情報を個別支援計画などで共有をしながら、常に状況確認をしていった。	
保育の内容 ⑤ 子どもの人権		90~96	A	先入観による固定的な対応をせず、一人人として尊重されるように配慮していった。		

第3章 保育の内容

		項目	ページ	評価	評価・課題
第3章 保育の ねらい	保育の内容 ねらい	乳幼児期に関わるねらいと内容	97~112	A	健やかに伸び伸びと育つ環境を整え、穏やかなスキンシップを心がけていった。
		教育 ① 健康 3歳未満児保育 (1.2歳児保育)	113~125	A	健康や安全に生活できる為に、必要な習慣を身につけられるように関わっていった。
		教育 ② 人間関係 3歳未満児保育 (1.2歳児保育)	126~142	A	個々の思いや甘えたい気持ちを受け止めようと心がけ、穏やかな雰囲気の中で保育を行えるように心がけてきた。 表現する意欲を十分に発揮することができるように環境を整え、自己表現を楽しめるようにしていった。
		教育 ③ 環境 3歳未満児保育 (1.2歳児保育)	143~158	A	
		教育 ④ 言葉 3歳未満児保育 (1.2歳児保育)	159~177	A	
		教育 3歳未満児保育 (1.2歳児保育)	178~190	A	

内容		⑤ 表現				
		教育	3歳以上児保育	191～203	A	一人一人の園児の気持ちを受けとめ、自分の力でできるように見守り、時には援助しながら進めていった。 多国籍の食・文化の違いを認め、尊重する心を育てていけるように関わっていった。
		① 健康				
		教育	3歳以上児保育	204～220	A	
		② 人間関係				
		教育	3歳以上児保育	221～236	A	
		教育	3歳以上児保育	237～255	A	
		④ 言葉				
		教育	3歳以上児保育	256～268	A	
		⑤ 表現				
保育の内容 の留意事項			① 保育課程	269～273	A	保育園の保育方針に基づいて、子供の成長を踏まえながら作成していった。
		② 指導計画 策定	274～291	A	子どもの発達にあった、長期的な見通しもって、指導計画を立てていった。	
		小学校との連携	292～300	B	コロナ禍もあり、互いの教育観や保育観知る機会がなかった。保幼小連携の観点から、今後は交流の場を設けられるようにしていきたい。	
		保育内容の自己評価	301～309	A	保育の実践を振り返ることで、次の保育に活かしていくことができる。	

第4章 健康及び安全

		項目	番号	評価	評価・課題
第4章 健康及び 安全	子どもの 健康支援	子どもの健康支援	310～321	A	アレルギー疾患を有する園児に関しては、保護者と連携し、適切な対応を行っていった。
	食育の 推進	食育の推進	322～335	A	園児自らが育てた野菜を食することで、食材に関する興味を育てていった。
	環境及び 衛生管理	環境及び衛生管理	336～341	A	園内研修等を利用して、衛生知識の向上に努めていった。
	災害への 備え	・安全管理 ・災害への備え	342～349	A	定期的な避難訓練・防災訓練の実施を行い、安全の確認・環境の整備を確認していった。

第5章 保護者に対する支援

		項目	番号	評価	評価・課題
第5章 保護者に 対する 支援	入所してい る保護者に 対する支援	保育園に入所している子どもの保護者に対する支援	350～361	A	一人一人の保護者や子どもの状況を踏まえて、保護者との関係性を高められるように働きかけていった
	地域におけ る子育て支 援	地域における子育て支援	362～365	A	子育て支援や一時預かり保育を行い、地域における子育て家庭の配慮をしていった。
	地域や関係 機関との連 携	地域や関係機関との連携	366～371	B	コロナ禍の為、地域との連携もなかなか取れない状況であったので、来年度からは徐々に進めて行きたい。

第6章 職員の資質向上

		項目	番号	評価	評価・課題
第6章 職員の 資質向上	職員の 資質向上	・職員の資質向上 ・職員の研修 ・研修の実施体制	372～385	A	グループ内での研修を通して、職員の意識の向上がはかれたと思う。またキャリアアップ研修では、専門的な知識を学ぶことができた。

【園全体の評価】

・今年度は園の運営方針を理解し、おおむね共通の理解をもって進めることができた。課題が見えてきたと思うので、一つでも改善が進むように、引き続きお願いしたい。共に歩んでいけるよう念じております。

【来年度の課題】

協力体制や共通理解を進める事が出来ているが、課題でもある。慣れてしまうと事故につながる恐れもあるので、上長の指示命令や指導に従い、各々の仕事に責任を持ち、完遂させることを心がけたい。自分の持ち分の仕事だけでなく園全体で課題意識をもち、その場その場で、解決できることを目指すことを、今後期待したい。アフターコロナに対応した保育の形を見直しと復旧作業があるが、ゆっくりと丁寧に進めていきたい。

2025.2.25

社会福祉法人見真福祉会

滑川聖徳保育園 秋山 順弘